

高精度スピンドル組み立て

売上高の5割に増強

エヌ・エス・エス

【新潟】エヌ・エス・エス（新潟県小千谷市、中町剛社長）は、高精度スピンドルユニットの生産を増強する。小千谷市内に新設した組み立て棟を11月下旬から順次稼働し、同ユニットの売上高比率を現在の2割から5割に引き上げる。国際情勢の変化や円安の影響で高精度スピンドルの国内調達需要が増加しているため。投資額は建設費や設備導入で5億円。2023年4月期は売上高19億円で、26年4月期に同24億円まで伸ばす。



スピンドルの組み立てなどの用途で建設した工場棟に「F21」と名付けた

新棟「F21」は延べ床面積1000平方メートルの平屋建て。9月に完成した。近くの本社工場から移す組み立てスペースは従来比2倍に広がる。精密研削盤、検査機器、入室時に異物を除去するエアシャワー、空気清浄機能付き作業台などを置く。エヌ・エス・エスはスピンドル内蔵部品の微細加工を主力とし、一部でユニット製品を手がける。社内で組み立てて出荷するユニットが売上高の2割に増加し、同工場だけでは手狭だった。新棟の本格稼働後に生じる空きスペースは加工機の新設などを検討する。同社製スピンドルユニットの最高回転数は1分間に4万7千回が標準だが、新たな開発により同10万回を達成している。

同社によると欧州や台湾からの輸入に依存しないサプライチェーン（供給網）構築を目指す取引先工作機械メ

ーカーが十数社あるという。国内では日本ベアリング（新潟県小千谷市）がスピンドルユニットの設計・組み立て業務を22年に終了。中町社長は「当社が受け皿になりたい」としており、従業員を現在比10%増の143人まで徐々に増やす方針。